

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所
TEL 0736(64)2300

＜予報の概要＞

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	やや多	野菜・花き全般	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ オオタバコガ	並 並多 やや少 やや少
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並 並並 並			
アブラナ科野菜	コナガ	やや多			
野菜・花き全般	アブラムシ類 ハダニ類	並 やや多	果樹全般	カメムシ類	多
			カンキツ	ミカンハダニ	やや少

気象予報

1か月予報（予報期間 9月23日～10月22日 大阪管区气象台）

＜予想される向こう1か月の天候＞

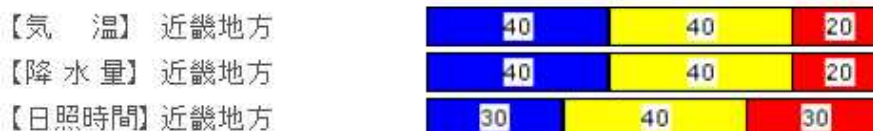
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、低い確率60%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (℃)	月降水量 (平年値) (mm)
10月	和歌山 18.8	和歌山 122
	潮岬 19.8	潮岬 244

I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける8月中旬の発生ほ場率は100%（平年50%）、発病株率は54.7%（過去9年の平均17.5%）であった。

② 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月下旬の発生ほ場率は9%（平年6%）、発病株率は0.9%（過去8年の平均0.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。

② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。

③ 露地栽培トマトおよびミニトマトについては、栽培終了後はほ場外へのタバココナジラミの分散を防止するため、誘引したまま抜根して速やかに枯死させ本虫を死滅させる。

④ 平成29年度病害虫防除技術情報第3号（9月1日発表）を参照する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 抑制栽培では、開花期ごろからの発生に注意する。

② 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。

② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

<アブラナ科野菜>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成0.0頭）、和歌山市78頭（過去6年の平均6.3頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。
 - ② 収穫後に作物残さを放置するとそこが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率20%、生息葉率1.8%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は33%（平成26%）、生息葉率は6.0%（平成5.6%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は、202頭（平成97.7頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。
 - ② ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが発生している地域があるので注意する。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は17%（平成21%）、生息葉率は2.7%（平成4.7%）、ナミハダニの発生ほ場率は17%（平成13%）、生息葉率は4.0%（平成1.5%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬のハダニ類の発生ほ場率は81%（平成29%）、生息株率は40.0%（平成11.4%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① キクに発生したナミハダニが移動するので、キク栽培ほ場に近いほ場では特に発生に注意する。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は50%（平成63%）、生息葉率は32.0%（平成23.2%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、防虫ネットを被覆して成虫の飛び込みを防ぐ。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率3%、生息葉率0.3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は44%（平年23%）、生息株率は21.9%（平年4.3%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市76頭（平年17.9頭）、御坊市261頭（平年42.5頭）、印南町68頭（平年43.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中・老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、ふ化幼虫の集団が分散するまでの若齢幼虫期に防除するよう努める。

② 薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤の連用を避ける。

③ 平成29年度病害虫発生予察注意報第1号（9月20日発表）を参照する。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率25%、生息葉率2.2%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は6%（平年32%）、生息株率は0.6%（平年5.0%）であった。

③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市157頭（平年295.1頭）、和歌山市684頭（過去6年の平均1,132頭）、御坊市450頭（平年768.4頭）、印南町756頭（平年309.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シロイチモジヨトウに準ずる。

7. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は6%（平年18.5%）、生息株率は0.6%（平年3.5%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市9頭（平年12.4頭）、御坊市0頭（平年5.3頭）、印南町2頭（平年6.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 中・老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部における9月中旬の発生園率は13%（平年33%）、発生葉率は2.6%（平年8.0%）であった。
 - ② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は0頭（平年0.5頭）であった。
 - ③ 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統の薬剤は年2回以上使用しない。
 - ② 秋期の防除が遅れた園では、早急に薬剤散布を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における9月中旬のカキの被害果率は、「富有」0.1%（平年7.7%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年1.0%）であった。
 - ② 紀の川市粉河の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ753頭（平年89頭）、ツヤアオカメムシ208頭（平年59頭）であった。
 - ③ 有田川町奥の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ434頭（過去3年の平均84頭）、ツヤアオカメムシ233頭（過去3年の平均56頭）であった。
 - ④ みなべ町東本庄の予察灯による9月中旬の誘殺数はチャバネアオカメムシ9,940頭（過去7年の平均2,228頭）、ツヤアオカメムシ8,631頭（過去7年の平均1,000頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接園では早くから被害が出やすい。
 - ② 園内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
 - ③ 台風通過後や強風後には、一時的に飛来が多くなることがあるので注意する。
 - ④ 平成29年度病害虫発生予察注意報第2号（9月26日発表）を参照する。
 - ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所コーナーの果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病害虫防除所コーナー>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujiyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病害虫防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。